

一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会

平成29年度 定時総会議事録

場 所 札幌市北区北7条西5丁目5-3 札幌千代田ビル 11階
日 時 平成30年3月26日 14時00分
社員総数 社員総数 419 人のうち 248 人出席
(内 書面表決 120人、議決権の授与 95人)
出席理事 宮崎直人、板谷俊英、小原陽一、釜谷薫、加藤浩志、寺澤道恵、福島誠一、
佐藤 剛、平山洋一、水谷裕恵、西塔昭代、高橋佳三
出席監事 姉崎重延、下川孝志、及川雅裕

1. 開 会

定刻に至り 司会者 加藤浩志 が開会を宣言し、本日の総会は総社員 419名中 248名の出席により法定数を満たしたので有効に成立した旨を告げた。

2. 会 長 挨拶

会長 宮崎直人 より本日の総会にあたり多数出席者があり、感謝の謝辞があった。
また、午前中に開催した「2018年介護保険制度・報酬改定の重点施策・詳細解説とグループホームの展望研修」を受け、「身体的拘束等の適正化のための指針」のひな型を協会で検討し、会員の力になれるよう取り組みたいとの発言があった。

3. 議事録署名人選出

議長より、事務局一任との発言があり、司会者 加藤浩志 より、GHさかえ 中田良彦氏 及び GHハーモニー 岩本栄行氏 が議事録署名人に選出された。

4. 議 事

1) 報告事項

- 〔報告第1号〕 平成29年度事業実施中間報告
- 〔報告第2号〕 平成29年度会計収支状況報告

議長より報告第1号と報告第2号は、関連事項のため一括で報告される旨が告げられた。

担当理事及び委員より、議案書に基づき説明報告がなされた。

2) 協議事項

〔第1号議案〕 平成30年度事業計画（案）

〔第2号議案〕 平成30年度収支予算（案）

議長より第1号議案と第2号議案は、関連事項のため一括で審議される旨が告げられた。

担当理事より、議案書に基づき説明がなされた。

質疑応答（質疑応答の内容については下記に記載）の後、平成30年度事業計画（案） 平成30年度収支予算（案）について議場に承認を求めたところ、満場異議なくこれを承認可決した。

質疑応答内容

質疑内容	応答内容
身体拘束廃止未実施減算関係のマニュアル・ひな型等をホームページに掲載いただける話があったが、会員に対するメリットということであれば、そういったものに関しては会員のみが見れるようにするとか、整理した方が会員を広く集められると思うので、検討してはどうか？ (GH函館あいの里、小野寺氏)	是非検討したい。総務委員会で早急に対応していただきたい。

その他

- ・冒頭挨拶で会長よりお話のあった「身体拘束廃止未実施減算」に対する「身体的拘束等の適正化のための指針」等を事業委員会で作成したい。皆さんに広く連絡していきたい。(平山理事)
- ・10月27日道南ブロックで実践研究大会を予定しているので、時間許す方は是非ご参加いただきたい(10月26日懇親会予定)。(GH函館あいの里 小野寺氏)

5. 監事講評

自治体向けGHの実態調査を行ったことで、共用型デイを実施する市町村がでてきた。共用型デイやショートステイを実施するにしても介護職不足の中で難しい部分もあるが、利用者に迷惑をかけず、求めた制度をきちんと活かしていくことが地域の方々や保険者の理解になり、介護報酬にも繋がっていくと思う。

地域格差等大きいのが現状だが、会長の発言にあったように、私たちは会員の為の組織である。地域できちっとやっている事業所が残り得る環境を作るには、やはりGHの質を上げるこ

とだと思ふ。当会は組織率も高く、役員も熱意を持ち一生懸命取り組んでいる。地域に還元する為、ブロックへの備品代や研修等開催の助成金増額の予算となったのはその一つの現れ。ブロック活動は交流の場にもなるので、研修資料以外にも様々な情報を得たりという形の中で勉強して行って欲しい。

会員・役員一体となってやれるのが私たち組織だと思ふ。色々な反省点を踏まえ基本方針が書かれている。どこかが滞ることなくやるんだという考え方で取り組んでいただきたい。

6. 閉 会

以上をもって、15時30分閉会を宣言し解散した。

上記の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

一般社団法人北海道認知症グループホーム協会 定時総会議事録

議事録作成者氏名 今井 加奈

平成 年 月 日 議事録署名者議長

平成 年 月 日 議事録署名人

平成 年 月 日 議事録署名人